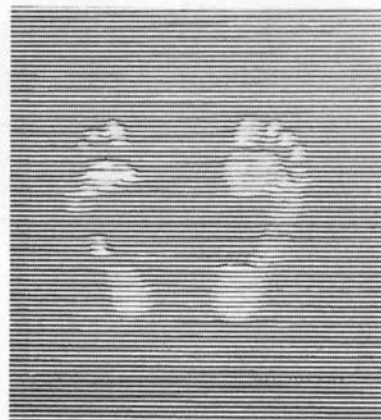


随想



カット/足立 幸久「UN TITLE」

神戸に五十年

橋本 武

△灘高等学校講師▽

昭和九年春、旧制灘中学校に職を奉じて以来、学校も居心地がよく、神戸という街も気に入って、とうとう半世紀もの間住みついてしまった。これから未知の世界に踏み出そうとする若ものたちにとっては、五十年という歳月は、気が遠くなるほど遙かなものに見えるらしいが、人生の落日にさしかかったわが身にとって、過ぎてきた五十年の歳月は「夢のまた夢」としか思われない。

この夢の世に一つの区切りをつけて、勤労生活に訣別したいというのが、数年来の私の念願であった。それを実現させる上で、五十という数字に大きな魅力が感じら

れた。しかしそのために、定年後の六年間を講師の資格で居据わるという無理を犯し、なにがしの迷惑をかけたことと思われる。はじめは、訣別のためのパーティーを自ら設営するつもりであったが、卒業生有志諸君の御厚意により、私の在職五十年を祝うパーティーとしていただき、私としてはテレクサさ半分で、教師冥利につきる思いを味わっている。

さりながら、勤労生活との訣別の宴の次には、やがて人生と訣別すべき日がやってくる。その日に対処するための心構えを固めておく必要にも迫られている思いである。人生最後の日に、まさか別れの宴を張ることもできない。張ったところで、ホスト役になるのか主賓になるのか知らないが、私自身に、客と共に宴を楽しむことは

できない。だとすれば、現世に生ある今のうちに、「君に勧む、更に尽くせ一杯の酒」ということにしたい。

幸不幸は問わず、私たち夫婦に子どもは授からなかった。もし子どもがいたら、ご多分にもれず世の親バカ族に名を連ねていたであろうが、いなかっただおかげで「恋愛」の泥沼に足をとられることのない人生であった。苦しみもなかったかわりに、喜びを味わうことも許されなかった。

しかし世の中とはよくしたもの



橋本ご夫妻とタカラジェンヌたち

で、私たちは「ないもののねだり」はしてこなかったから、また別の楽しみを味わうこともできた。人間はひとりで生まれ、ひとりで死んでゆかねばならぬ。孤独な人間の生きてゆく心の糧は「愛」以外にはない。私は特定の人間に対する愛には薄かったかもしれない

れど、選んだ仕事のおかげで、不特定多数に対する愛に支えられてきた。

職を離れたあと、私には還暦の齡からのめり込んだ『宝塚歌劇』の世界がある。単なる一ファンとしての係わり以上には出ないけれど、彼女たちの示す魅力は、ずさんだ今の泥沼の世に咲き出た、清純な蓮華のように高く貴いものと私の眼には映じる。滅びに向かう老齡人生において、あたたかい血の通う、生きた芸術品を見るような思いで、彼女たちとの接触を保つことのできる喜びは何ものにもかえがたい。これも神戸という街と縁の結ばれたおかげであった。

感動を呼ぶ

『宮沢賢治の世界』

佐藤戸光子

ハクラムボンの会・神戸公演主催者



二年前の秋のことでした。私はある人に同行して京都の山奥にあるボランの広場に連れていかれたのです。山々の醸し出す澄んだ空気にすべてが秋色に染まった景色に心をなごませ、今から行く所がどんな場所か、何があるのか、もうすっかり忘れかけておりまし

た。あたりが薄暗くなった頃、やつと村の人口らしいそれは大きな樹の下にある古ぼけた祠を見つけたのです。そこから細い一本道。

遠くに小さな灯が見えます。そこがめざすボランの広場だったので。肌寒く感じるあたりのそこだけは、妙に暖く思われたものでした。ボランの広場とは、現代の教育に疑問を感じ自閉症の子や、精神薄弱児を育てようといこうと始められた養護施設です。そして、私がそこで観たものが林洋子の語り、雨田幸子のアイリッシュハープによる演奏『宮沢賢治の世界』だったのです。森閑とした山奥で語られる『やまなし』『よだかの星』は林さんの朗々とした声と演技力、雨田さんの奏でるハープの音色と共に、深い感動と衝撃になって私の心を包みこんでしまったのです。あの日あの場に行った事すら不思議に思えるのを、総てが超越し、たとえようもない驚きと喜びの戦慄が、何であつたのかは今もってわかりません。宮沢賢治の作品が林洋子の力量か、ハープの音色のせいなのか。あるいは自分の心のどこかに求め続けていたものがそこにあったからでしょうか。

あの日以来、この感動が忘れられず、私の思いだけでなく、一人でも多くの方に観てもらえたらと今回の神戸公演の企画となつたの



『よだかの星』を上演中・クラムボンの会

でした。

いい話を少しも聞けない毎日。肉親を殺したり、友達を傷つけた、ありとあらゆる悪の限りを見せつけられる世紀末の状態の世の中。こんな中で少しでも新鮮な感動と生への喜びを感じてもらえたらと。たとえどんな理由があるにせよ人は人としてほんとうの意味での自由と平等があり、生かされていることの感謝と、生きることへの喜びをみつけないかなければならないと思います。

人にはそれぞれ違った環境があり、思考があり、受けとめ方があります。誰もが私と同様に『宮沢賢治の世界』を観て感動するとは毛頭考えてはおりません。しかし、ほんの少しでもその人なりの感動と、キラリと光る何かを心にとらえてくれたらと願わずにはいられない気持です。

『宮沢賢治の世界』を観た多くの

子供達は、その澄んだ眼でいったい何を見つめて生きていくのでしょうか。

(林洋子さん主催のクランボンの会は、全国二六〇回の公演を重ね、小学校、養護施設をはじめ各地の人達に支援され、今なお広がり続けているのです。)

★クラムボンの会

東京都港区三田5-2-18・1311
番03(455)5198 林 洋子

慎しむべきは

小島 輝正



△松蔭女子学院大学教授▽

慎しむべきは酒である。

ほかに酒も慎しむべきものが世にないではないが、私の年になるとそちらの方はさほど厳重な警戒を要しない。心の欲する所に従って矩を踏えず、という境地に、好むと好まざるとにかかわらず接近するからである。

ところが、酒の方はそうはいかない。口を細目にあけてアルコール性液体を流しこむと、その有害飲料はたちまち胃の腑に到達し、そこからさらに上下四方に浸潤して、いち早く脳味噌にまで行きわたる。とくに私の年になると、胃

の腑も肝の臓も長年の酷使に耐えかねて仕事ぶりがすこぶる横着になっていくから、その悪質な成分が脳細胞に達する速度はいちじるしく早い。要するに、たちまち酔っぱらうのである。

その酔っぱらったうえで口走った有らぬひと言が命取りになった今春某月某夜、三の宮のさるピアノ・バーに何人かの男女とつれ立って出かけ、おだてられて年甲斐もなく二、三曲歌った。

もともと、そうしょっちゅうのことではないが、以前から、ご存じカラオケ・バーで、これもむろん酔っぱらって時々おだてに乗って歌ったから、前科は重々ある。

世の中には、人をおだてるのが実に巧妙な人がいて、その一人が今回の「リサイタル」なるもののフィクサー島京子女史である。彼女は私がぐずぐずしていると、さっと立ち上って、まず自分が銀鈴のような清純可憐な声で独唱してみせる。それからじんわりと私をいびりにかかる。私がご婦人に対するエチケットの遵守を天命と心得ている老騎士であることを彼女はつとにわきまえているのである。そのピアノ・バー「ビジー・ビー」に私をつれて行ったのも彼女で、思えばそれが私の運のつきであった。

美女のママ手ずからのピアノ伴

奏が大へん上手で、自分の歌まで妙に上等のように聞えたのが酔っぱらいの浅はかなところで、そのとき私が、いつか自分の歌をテープにとりたいから伴奏してくれるか、と口走った。それを島京子女史がその場で聞きつけたか、あるいはあとで聞いたかしたのが、あられもない「リサイタル」のことの起りである。

もともと、私がそんな頓狂なことを口走ったのは、必ずしもその場の酔狂ではない。ある新聞で記事にしていたように、自分の葬式のときに自分の歌をテープで流したら少しは退屈しのぎのアトラクションになるうか、と前々から思っていたのである。ただし、そういうことは隠密にことをはこぶべきことで、それを酔余ばらしてしまったのではさまにならない。やはり、慎しむべきは酒である。

一夕お遊びの話を聞きつけた人々が、おひまでよろしいですなあなどという。勤め先が変わったからといって別にヒマを持て余しているわけではない。オレはどうせ死ぬまで雑用係りだと近ごろはいささか世を憐みながら日々の頼まれ仕事に追われているのである。

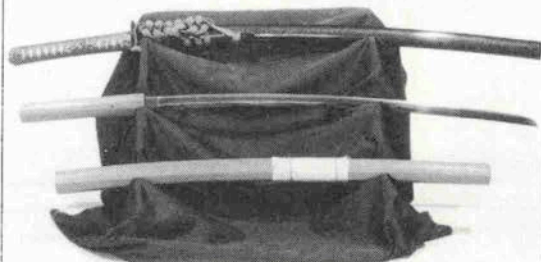
★小島輝正たそがれリサイタル

12月2日(金) 午後6時より

神戸風月堂ホール

¥1900 (飲み物水割り一杯代含む)

刀剣 古美術



刀 拵つき 末古刀 無銘(三原) 2尺2寸6分
特別提供価格 ¥950,000

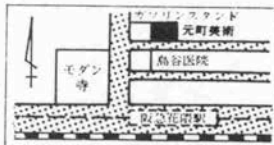
- 毎月20日無料鑑定 ●研磨、白サヤ、その他工作
- お支払いに便利なローンをご利用下さい。

兵庫県美術刀剣商組合事務局

刀剣の **元町美術**

店舗ビル改築のため仮店舗にて
営業致しております。

神戸市中央区花隈町
20-6 (阪急花隈駅西口北へ徒歩1分)
☎(078)351-0081



今年もユーハイム・コンフェクトの
X'masデコレーションケーキを
かこんで、心に残るあたたか〜い
クリスマス・イブをお過ごし下さい



—— 北 欧 の 銘 菓 ——

ユーハイム・コンフェクト

本社 神戸市中央区熊内町1-8-23 ☎221-1164

ある集い・その足あと

和紙ちぎり絵 しゅんこう

中野 肇

△朝日新聞代表取締役社長

ちぎり絵について、皆さんどう

いうイメージをお持ちでしょう

か。最近では和紙の種類や色も驚く

ほど豊富になり、その作品を見て

頂くと、油や水彩絵画に勝るとも

劣りません。伝統ある日本古来の

手すき和紙を画材として、指先で

ちぎり、のりで貼りながら描くわ

けですが、鉛筆とのりと目打ちさ

えあれば、手軽にできるのも魅力

です。和紙独特のあたたかさ、や

わらかさにロマンを感じる人も多



第7回虹展の会場風景



ゲスト審査員末広寛の作品

いでしよう。

私の母はちぎり絵作家（注・中

野はる）で子供の頃よりちぎり絵

は数々見てきました。

「ちぎり絵評論家ですね」等と言

われることもあります。が、もっ

とちぎり絵を一般大衆化させるた

めちぎり絵を指導する教室経営と

ちぎり絵教材を販売する朝日新聞

設立しました。七年間の間に直営

の教室が京阪神を中心に全国に三

十カ所、教室から巣立った認定講

師、四百五十名は、北海道から鹿

児島にいたる全国各地で指導者と

して活躍しております。〃路地裏

にちぎり絵を〃をモットーに、巾

広年齢層を持っています。が、初

心者でも上達が早いことや手軽に

できることから子育ての終わった

四十代、五十代のミセスが多いよ

うです。山形で呉服屋を営む男性

や八十歳以上の方も多くおられ、

高齢化がすすむ日本社会では、適

したお稽古事といえるのではない

でしょうか。各教室共それぞれ和

気あいあいとしたムードでやって

います。

九月末に催した第七回虹展では
全国から約千点の作品が応募され

その中から審査された七〇〇点が
神戸サンポーホールの会場に展示
されました。過去最大の規模とな
り、今回ゲスト審査及びご出品を
お願いした放送タレントの末広真
季子さんもご来場頂き、花を添え
て下さいました。この虹展につい
ては、将来はしゅんこうのちぎり
絵関係者だけでなく広く一般から
も作品を募集したいと思っており
ます。

〃しゅんこう社長賞〃朝日新聞
社賞〃ゲスト審査賞〃の他、特
選・努力賞といろいろ賞が出され
ます。年に一回のことなので、全
国各地より愛好家がバスを借り切
って多数虹展見学のために来神し
て下さいました。温泉地の有馬で
一泊し、ゆっくり寛いで満足して
頂いたようです。

ちぎり絵を通して、全国に友達
の輪が広がるのも楽しいことデ
す。元町の朝日会館三階にサロン
があり、和紙、色紙、額等が豊富
に揃っています。教材も約三百種
に及び、風景、静物、人物などバ
ラエティ豊かです。

最近はそのデザインと風合が評
価され、ポットや有田焼、美濃焼
の陶磁器にも採用されました。一
人でも多くの方に、和紙ちぎり絵
に親しんでいただきたいものです

□（株）朝日新聞社
神戸市中央区浪花町59 朝
日会館内 電話078-3322612（代）

小磯良平画伯文化勲章叙勲に寄せて

小磯芸術・頌

赤根和生〈美術評論家〉

“われらが小磯画伯”が栄えの文化勲章を胸に他の受章者とともに並んだ写真を新聞で見て胸が熱くなった。芸術院会員、そしてついに最高榮譽たる文化勲章／当然のこととはいえ、いささか遅きに失した感さえあるが、ともあれホッとした想いである。

昔から「文は人なり」といわれるが、実は「絵もまた人なり」なのである。小磯芸術には誠実な人柄そのものが滲み出、きらめいている。わたし達には親しいものになっている小磯画伯の画については、すでに多くが語りつくされているが、何といってもその抜群の素描力である。一触即発、修正をゆるさない簡潔な筆さばきは、もちろん、物を見、そしてそれを包む雰囲気さえ含めて筆に伝える、という修練の賜物でもあらうが、小磯さんの場合は天性の、類いまれな優れた素描家なのである。

かつて（二た昔も前にならうか）神戸大丸で小磯良平素描展が開かれた際、神戸新聞の需め（もと）に応じて草した一文のなかでも、これに触れたが、例として写真版に取り上げたフイレんツェの八花の

聖母寺^{マリアケルツェンキルヒェ}に即して、油彩はいわば粧われた散文とすれば素描は詩（韻文）に当たるといようなことを書いた記憶があるが、スピーディーな線の戯れのうちに、厳しさとリズムカルな動きが俊敏な構成力に支えられた生氣にあらためてその感を深くしたことであった。

そこには、粉れもなく詩があった。詩情が息づいていた。そしてそれら詩、詩心は小磯さんの油彩にも溢れている。清潔でかつ清冽、そして高雅な気品が漂う。それらは決して絵そらごとでできるものではない。描く人の内側から滲み出、人を惹きつける実質的な雰囲気なのである。素描力に秀でた人はえてしてそれに溺れがちなものであるが、画伯は色彩とともにそれを制御しつつ、“必要にして充分な”リアリティのうちに、過不足なくまとめられている。多弁に走らず、さりとして欠如感とも無縁の不思議なリアリティなのである。さりとて描き流したようではないですみずみまで神経が行き届いている。

小磯さんの女人像の顔は一樣に、いわゆる小磯調のノーブルで知的な気品を匂わせていることは



喜びの小磯画伯を囲む嘉納家のみなさん（左から嘉納ももさん、嘉納洋二さん、二女の嘉納邦子さん、嘉納 元君）。

（カメラ・池田 年夫）



アトリエでくつろぐ小磯画伯

話がとんだところに及んでしまったが、神戸が生んだ二人の巨匠、故金山平三、小磯良平はその類いまれな透明感において共通する神戸氣質がうかがわれるが、風景と人物、ある面ではまことに対称的である。金山画伯については、かつてその画境を論じて、あのフランス19世紀のコローに比して「日本のコロー」と呼んだことがあるが、小磯画伯は、ギリシャの古典的明晰を加えて、かのオランダ17世紀の巨匠フェルメールであらう。静謐、精緻なその諧調は、小磯画伯に伝えられているものがある。フェルメールは「室内に宇宙をよび込む画家」と評されるが、小磯画伯はさしずめ「室内から宇宙に涼風をおくる画家」といい得ようか。

以上、忽忽のうちに、意にみたない一文を草して責めをふさぐことにするが、終りにのぞみ、われらが△絵の虫▽小磯さんのますますすぐ健勝、白寿記念展を催していただけるよう、その△虫▽の本命を尽くされんことを心からお祈りしつつ…。

定評のあるところだが、それらの特徴に関して、ある年、ある公募団体の研究会でエロティシズムとは？ というテーマをめぐる、小磯さんの女性像にはなぜ下のヘアが無いのか？ で議論百出の挙句、結局、「ご本人の趣味の問題」に落ち着いたものの、釈然としないことで筆者に△エロティシズム▽談義の依頼があった時、その点には敢えて触れず一般論に終始してかわしたが、ともあれジョルジュ・バタイユも「エロティシズムは単なる性的衝動とは異なる」と断言しているとおり、そのヘアは何も女性のシンボルでもなければトレード・マークでもあるまい。ある画家は、何の恨みか？それを獯猛なほどにリアルに描くが、そもそも日本ではその呼称が示すごとく極めて隠微な響きを持ち、秘毛と優雅に書いても何やら秘密めいて湿っぽく、英語で△ピューピーズ▽と発音すれば愛らしくカラッとしているのとは対称的である。

十一月三日に、小磯良平画伯は、皇居において文化勲章を受章され、当日は貞江夫人が病氣療養のため小磯さんの嘉納邦子さんが共に参代されました。この取材は、十一月六日の日曜日の朝、ご家族と愛犬のクレオ（クレオパトラ）も一緒に記念撮影を。ところが急に貞江夫人が九日の朝亡くなれたという報せをきいて、ほんとうに驚きました。十一月十日、下山手三丁目の神戸教会でご葬儀がとり行われ、小磯画伯の描かれた夫人像が印象深いお別れでした。心よりのご冥福をお祈りいたします。

△編集部▽

沖縄に民博の先駆けを見る

海洋文化館

大島襄二 △関西学院大学教授▽

見て安堵しました。

沖縄・本部半島の国営海洋博物館は、日曜日というのに閑散としたものでした。毎日、何万という人でごった返した八年前の賑わいが遠い昔話になってしまいました。しかし、正門を入ってすぐ左の赤い「海洋文化館」の建物が、その向う側の郷土風の「沖縄館」とともに、知的所産の誇りをもつて重厚にその姿を保っているのを



知的所産の誇りを示す海洋博物館の前で大島教授

沖縄海洋博に政府出展の「海洋文化館」をプロデュースしたのは梅棹忠夫さん（現・国立民族学博物館館長）でした。石川栄吉さん（都立大教授）・川添登さん（建築家）・小松左京さん（作家）と私の五人、何度も何度も激論を交わした末に生まれたものです。世界じゅうの海に日本の若い研究者をそれぞれ三カ月滞在させて、そこの人々の生活を見究めた上で道具を集めて来るように、という号令で十五人の定着メンバーを十五カ所の島に派遣しました。文化というのは地域に根ざしたものであるという主旨で、世界の広がりの中にそれぞれの文化の位置づけをしようという地域文化論を展示の形式で表現したのです。これはいわば大阪・千里の国立民族学博物館の先駆をなすものでもありました。現にこのときの十五人の若手は、いま日本人人類学・民族学界で海のことに関しては世界に通用する中堅学者となっています。

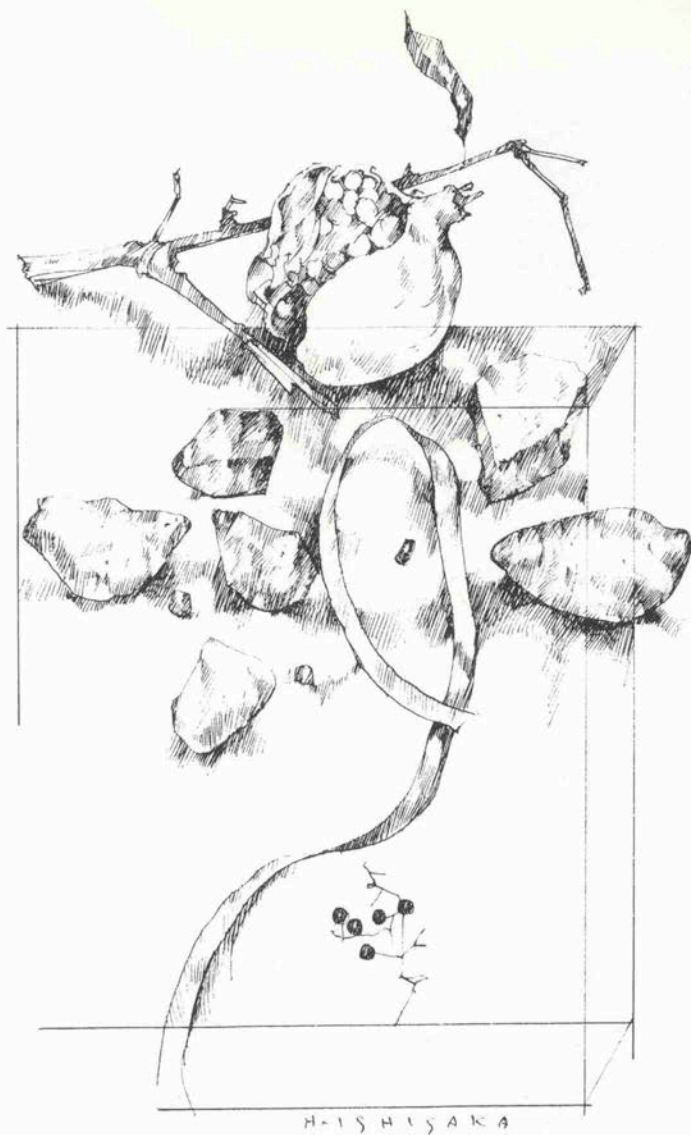
館内に入ると、バジャオの漂海民の家舟、ニューギニアの双胴カヌーのラカトイ、スラウェシのトラジャの舟型の屋根をもつ家、そ

して島根県の花やかな精霊船等が並ぶ間に、斜めに配置された棚いっぱい、十五人が各地から集めて来た生活の道具が磯の香を湛えて展示されています。私にしてみれば、これは誰がどの島でどんな苦勞をしながら集めて来たものという裏話の思い出がこもって、懐かしさが先立つのですが、客観的に見ても、こと海の文化に関しては、千里の民博にも見られないような素晴らしい集積がちりばめられているのです。そして、実は、民博を訪れる人々に感動的な第一印象を刻みつけている「チユチュメニ号」は、この海洋博の収集メンバーの一人がミクロネシアのサタワル島に定着している時に島の人たちと話したのがきっかけで、三〇〇〇キロの波濤を乗り越切って沖縄にやって来た航海用カヌーそのものなのです。

沖縄まで観光に行く人は年々増えています。那覇や首里や南部の戦跡には団体客を乗せたバスが引つ切りなしです。新婚カップルは万座ビーチまで来ています。どうぞもう一つ足を伸ばして、この本部半島の海を訪ねて下さい。そして世界の海の民族の物語りをじっくり探勝して下さい。もしも、あの海洋博の人混みの中でここを見たことがある方でしたら、こんどは人の少ない館内で、一つ一つの説明をゆっくり覗きこみながら、あの時に気づかなかった珍しい文化を再発見して下さい。

詩心象

詩・安水 稔和
画・石阪 春生



まちのまんなか

なぜぶつからないのか。同じ道を毎日とおっているのだからぶつかってあたりまえなのに。きのうの私。おとといの私。さきおとといの私。陽がうつる。鳩が舞う。動悸がやまない。

実はいまぶつかった。まともにとーんと。ほらまた。まさか。まさに。きょねんの私。おととしのさきおととしの私。からまる。もつれる。あふれる。街のまんなかのたくさんの私。

● れんさいエッセイ

Wakakoの神戸はKOBÉ 〈7〉

星のカーペット

小原 稚子 〈小原流理事・国際部長〉



絵／上尾忠生

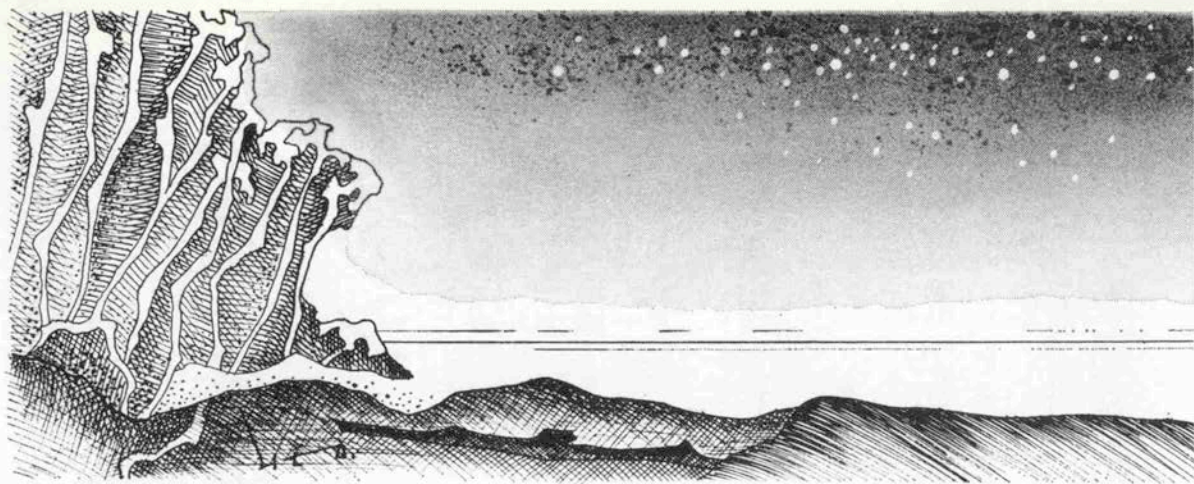
いけばなの仕事で世界を旅するというと、とても優雅なことに聞こえるらしい。けれども、一回の旅行でいつも数カ所を三〜四週間でまわるのだから、ご想像とは大違いなのだ。

その間、ずっと一カ国に留まっているとは限らない。ヨーロッパのように、支部から支部へということは、国から国へということになる。まるで芝居の巡行のように、花器やその他の道具一式を持ちまわるのは大変なことなのだ。大荷物の通関、荷ほどき、荷造りの繰り返しになる。その上に、これものに花材なのだから始末が悪い。

朝は四時起きで花市場へ。日本のように花屋に電話一本で注文できるわけではないのだ。作業服を着て裏方をし、ドレスアップして毎夜のごとく開かれるパーティーにとんでいく。その合い間に肝心の仕事をしているといったほうが正しいかも知れない。観光や買物とは縁遠い海外旅行なのだ。

そんな多忙な旅が続くほどに、たまに見つけた時間は貴重である。行ってみたくところに行けたときは、心の洗濯ができたような気分になる。





二年前のニュージーランドでのそんな「経験」は、今でも昨日のことのように思い出される。

土ボタルというのをご存じだろうか。世界でも珍しい。オークランドからバスで三時間ほどのワイトモというところに鍾乳洞がある。そこに生息する夜光虫のことをいうのである。ぜひ見ておこうと一日をさいた。

シーンとした真つ暗な洞穴の奥に、音もなく川が流れていた。小舟に乗り込み、頭上すれすれの鍾乳石や、落ちてくる水滴に気をとられていると、ガイドが、

「上をご覧ください」

という。まるで、星のカーペットを敷きつめたようだった。思わず息をのむ。直径二センチほどのまるいシャンペン色の光が無数にちりばめられて、点滅せずに光り続けていた。

目になれば、その光っている幼虫から、クモの糸のようなものが、びっしり垂れ下がっている。ぬれた部分があるのか、その糸も時おりピカリと光る。細いガラスの雨のようで、まさに神秘的だった。

ガイドがいった。

「三カ月ほどで成虫になり、飛べるようになりますが、二、三日で死んでしまいます」

説明は続く――

「そのときは、仲間の垂らしている糸に飛びこんでエサになる、はかない命です」

はかないどころか、すごいことだ、と思った。まさしく輪廻（りんね）ではないか。足元から血の気が引くような感動に襲われた。自然の法則の大きさと、その摂理の不思議さ。それにひきかえ、人間のなんと小さいことか。

ストレスになったり、頭を痛める難問題をかかえているときなど、ふとあの土ボタルのことを思い出す。あんな小さな虫が大宇宙の大きさを教えてくれるとは――。

あの星のカーペットが、私の小さな悩みなどはわけもなく乗せて、遠いところへ運び去ってくれるのだ。

★ファッション都市神戸の面目をかけて

来秋、華やかに ファッションフェアを開催

テーマ／
神戸を語ろう
ファッションフェア'84

HUMAN／LIVE／CREATIVE



日時／昭和59年11月21日(水)～25日(日)
場所／ポートアイランド
主催／神戸トータルファッションフェア協議会
後援／大阪通商産業局(予定)

10月27日、「神戸トータルファッションフェア協議会」が、坂井時忠兵庫県知事、宮崎辰雄神戸市長を名誉会長に、石野信一神戸商工会議所会頭を会長として設立され、来年11月21日から25日までの5日間、「神戸を語ろうファッションフェア'84」ヒューマン・ライブ・クリエイティブ」をテーマにフェアを開催することが決定した。

これは、兵庫県、神戸市、神戸商工会議所並びに兵庫県下のファッション関連団体で組織され、神戸のライフスタイルを広く一般に提案してゆくとともに、ファッション都市神戸のイメージのより一層の強化を促進することを目的とするものである。

成果を上げた「ポートピア'81」

今から10年前の昭和48年の年頭に、当時の神戸商工会議所会頭であった故・砂野仁氏が恒例の神戸商工会議所等主催の新春合同祝賀会の席上で「神戸のこれからの方向としてファッション都市をめざすべきだ」と提言し、大きな話題をよんだ。神戸市はこれを受けて積極的な施策を進め、ファッション市民大学の講座を開講するとともにファッションデザインコンテスト、ファッションフェア・ショーなどを開催、一方ではファッション情報の収集のためにミラノへ職員の派遣を行うなど、着々とファッション都市づくりのための布石を打っていった。

すでに産業界も十分に機が熟しており、神戸のアパレル産業集団・KFA（コウベ・ファッション・アソシエイション）、神戸のファッションデザイナー集団・KFC（コウベ・ファッション・クリエイター）、神戸のアパレル業界の協同組合・協同組合KFC（コウベ・ファッション・シティ）、婦人子供服の小売専門店の集団・KFK（コウベ・ファッション婦人子供服協同組合）、ファッション市民大学卒業生グループ・KFS（コウベ・ファッション・ソサエティー）、食文化を研究するグル

ープ・KFR（コウベ・ファッション・リョウリニン協会）、ファッションモデリストの集団・KFM（コウベ・ファッション・モデリスト）といった組織がこの前後に相ついで誕生し、それぞれ着実に活動を推し進めた。

この他、各業界がそれぞれ独自のプログラムをもち、真剣にファッション都市づくりの動きを進めていった。

また、神戸がファッション都市をめざして9年目に開かれた「ポートピア'81」も大きな成果をあげた。これは、昭和56年3月20日から180日間にわたって開催され、当初の参加入場者予想を超える1600万人の人々を集め、21世紀の明日にひろがる人類の夢と希望、そして理想をあらゆる角度から展開し、ひとつの神戸のイメージづくりという意味においても大成功であった。もちろん、このポートピア'81でも神戸のファッションをテーマにした、パビリオンがいくつかできて好を競った。ある意味で、ファッション都市神戸のスタートでもあった。

稼動を始めたファッショントウン

ポートピア'81開催以前から、その跡地利用に関していろいろ検討されたが、ここに神戸のファッション産業を結集し、新しい町づくりを展開するためのファッショントウン建設へと話がまとまっていった。ちなみに、先にあげた協同組合KFC（木口 衛会長）は、ファッショントウンへ進出する予定のアパレルメーカーによって結成された団体である。そして、ポートピア'81終了後、直ちにファッショントウンづくりが始まった。

今年、3月11日、ファッショントウンへ進出する企業によるKFT（神戸ファッショントウン協議会）が設立された。これは、KFCを発展的に組織変えたものでファッショントウンへ進出する29社で構成されている。今年度中に、すでに3社が稼動している。

一方、次の大きな節目として、西神地区を中心に昭和60年8月24日から12日間にわたって学生のオリンピックと言われている「ユニバーシアード」が開かれる。若者

たちのスポーツを通しての交流ではあるが、一つの大きな国際的なイベントであり、国際都市神戸のイメージをさらにアップするものとして期待されている。

このように神戸がファッション都市として、質・量ともにますます充実していく中で、今秋には京阪神3都市合同により「京阪神ファッションマンス(トリフィア'83)」が開かれ、神戸においても多彩な催しが展開された。

以上、この10年間の歩みをさつと振り返ってみたが、ファッション都市神戸をさらに内外にアピールするため企画されたのが、来秋開かれる「神戸トータルファッションフェア」である。

これについては、今年の新春、石野信一神戸商工会議所会頭が提唱し、神戸商工会議所をはじめ、兵庫県、神戸市が、早速検討をし、冒頭に述べたようなかたちで開催することが決定したのである。

次に、神戸トータルファッションフェアの内容をみてみたい。

その趣旨は、ファッション産業を単にアパレルだけでなく、衣食住等生活文化を彩るすべての産業だと位置づけ、国際都市神戸が永年培ってきたこれらの産業を一堂に集めて、神戸トータルファッションフェアを開催し、神戸のライフスタイルを広く一般に提案していくとともに、ファッション都市神戸のイメージを、より一層アップするところにある。

テーマの設定に関しては、テーマ委員会(座長・新野幸次郎神戸大学経済学部教授)によって検討が進められた。その中で、神戸トータルファッションフェアのテーマとして、「神戸を語ろうファッションフェア'84」ヒューマン・ライブ・クリエイティブ」が決定したが、その検討過程において、例えば、神戸トータルファッションフェアは業界、行政、消費者がみんなで新しいライフスタイルを創り出していくものである、というような方向づけが行われ、今回のテーマに反映された。

次に、事業内容を紹介しよう。これは、自主事業と協

賛事業とに大別できる。

まず、自主事業については、

(1)シンポジウムの開催／11月29日(水)於・ファッショントウン内ホール。神戸ファッションの理念とその構造を追求する。

(2)オープニングパーティー／11月21日(水)午後6時於・神戸ポートピアホテル。神戸トータルファッションフェアの趣旨に対応したイメージファッションショーが企画されている。

(3)トータルファッション展／11月22日(木)～25日(日)於・神戸国際展示場。神戸を中心に県下の関連産業を一堂に集める総合展示場と、ハイセンスな神戸のライフスタイルを発表、提案するファッションシアターとで構成される。

(4)バザール／11月22日(木)～25日(日) 於・ポートアイランド市民広場。

(5)閉会式／11月25日(日) 於・神戸国際展示場。会期中評判のよかった展示、催し等を表彰する。

次に、協賛事業であるが、すでに決定しているのは、

(1)京阪神ファッションマンス神戸地域ブロック事業

(2)世界のファッションショー／提供・ワールド

(3)健康と市民スポーツショー／提供・アシックス

(4)国際室内スポーツエキジビションマッチ／提供・ダイエー

(5)アジア音楽祭／提供・UCC上島珈琲

であるが、催しについては、今後増える見込みである。

このように、来秋の開催を目ざして、官・民が一体となり、着々と準備が進んでいる。今回の神戸トータルファッションフェアのねらいは、すでに述べたように、神戸のもつライフスタイルを広く一般市民に提案し、ファッション都市神戸のイメージアップをはかることである。その意味において、市民サイドからも、その成功が大いに期待されるところである。

